

地域連携
学生フォーラム
in Osaka 2024

報告集



集え！大阪 Lover
～ 出会い、地域で支え合い～

目 次

はじめに	1
次第	2
各団体の発表概要	
学生発表① 大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ 異文化交流から多文化共創へ～地域情報共有や地域関係づくり～	3
学生発表② 大阪国際大学短期大学部 栄養学科 海老澤セミナー “食”をととした地域とのつながり	6
学生発表③ 大阪電気通信大学 工学部 北澤研究室 香里三井団地ニコニコのデザインプロジェクト …学生と住人によるコミュニティ拠点整備…	11
学生発表④ 関西大学 児童文化実践サークル「うぷ」 子どもと関わるボランティア	14
学生発表⑤ 摂南大学 農学部 すももサイダープロジェクト 地域振興・農業振興への貢献につながる6次産業化の取り組み	17
学生発表⑥ 桃山学院大学 社会学部 ソーシャルデザイン学科 コミュニティの輪の創出	20
フォーラム当日の様子	23
参加者アンケート集計結果	26
学生運営メンバーの活動実績	30
学生運営メンバーの活躍	32
学生運営メンバー 事後アンケート集計結果	34
広報用チラシ（2種）	36

はじめに



特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪
地域連携部会長 須原 祥二
(四天王寺大学 学長)

「集え！大阪 Lover ～出会い、地域で支え合い～」をテーマに開催された、地域連携学生フォーラム in Osaka 2024。本フォーラムは、大学コンソーシアム大阪が主催し、地域と連携した研究活動やボランティア活動などに取り組む学生の発表と交流促進を目的に、毎年開催しています。

今回のフォーラムでは、6大学の学生が、地域社会で実際に取り組んだ6つのプロジェクトを発表しました。ポスター発表では、発表者と参加者が活発に意見交換を行い、新たな気づきを得る機会となりました。また、後半の交流企画では、2025年日本国際博覧会協会の方をお招きし、大阪・関西万博をテーマに、若者ならではの視点から活発な議論が展開されました。

本フォーラムの最大の特徴は、学生が主体となってフォーラムの企画・運営を行っていることです。今回は6大学9名の学生が、約5か月間という長い期間をかけて、ポスター発表、グループワーク、そして当日の運営・進行まで、全てを自分たちの手で作り上げました。学生たちの熱意と創造性あふれる活動に、心から敬意を表します。

今回のフォーラムを通じて、学生たちは地域課題に対する理解を深め、多様な視点から課題解決に取り組むことの重要性を学び、また地域社会の一員としての自覚を新たにしたことと思います。

本報告書には、各発表の詳細や、学生たちの活動記録がまとめられています。これらの情報が今後の地域連携活動のヒントとなり、より一層活気あふれる地域社会の実現に貢献できれば幸いです。

最後に、本フォーラムの開催にあたり、多大なるご支援を賜りました関係各位に心より感謝申し上げます。

2024（令和6）年12月

地域連携 学生フォーラム in Osaka 2024 次 第

◆日 時：2024(令和6)年10月20日(日) 10:00~16:30

◆会 場：グランフロント大阪 北館タワーC 8階

ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC RoomC01 + C02

◆テーマ：集え!! 大阪LOVER ~出会い、地域で支え合い~

◆スケジュール：

時 間	内 容
10:00~10:15	開会挨拶・趣旨説明・部会長挨拶・委員紹介
10:15~10:30	アイスブレイク
10:30~10:45	発表紹介(計6事業)
10:50~11:35	ポスター発表(前半) <ul style="list-style-type: none"> • 大阪経済大学 • 大阪国際大学 • 関西大学
11:35~13:05	昼食休憩・準備(~最大13:05まで)
13:05~13:50	ポスター発表(後半) <ul style="list-style-type: none"> • 大阪電気通信大学 • 摂南大学 • 桃山学院大学
14:00~14:10	<ul style="list-style-type: none"> • 委員からの講評 • 交流会の案内(学生運営メンバーより) • 小休憩
14:10~14:30	参加者交流会(学生運営メンバーによる進行) <ul style="list-style-type: none"> • チーム分け • アイスブレイク
14:30~16:30	ワークショップ「万博イメージってどんなの？」 <ul style="list-style-type: none"> • 万博協会から万博に関する紹介 • ディスカッション「万博を若者に広げるには、何ができる？」 • 全体発表 • 表彰 • 閉会挨拶 • 写真撮影

◆参加者数：

発表学生 21名、学生参加者(ゼミ生、チームメンバーなど) 9名、
 大学教職員(担当教員、事務担当者等) 7名、その他関係者(連携先関係者等) 2名、
 一般観覧者 12名、大学コンソーシアム大阪 地域連携部会関係者 5名、
 同コンソーシアム 事務局 2名、
 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会(ゲストスピーカー) 2名、
 学生運営メンバー 7名

計67名

学生発表①

■大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ

活動テーマ	異文化交流から多文化共創へ ～地域情報共有や地域関係づくり～
活動場所	大阪市東淀川区
連携先	安積濾紙株式会社さま、国際未来学院さま
活動主体	大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ

1. 活動概要

今般、外国人の増加が続いている（令和2年度国勢調査）。海外からの技能実習生なども含め地域外国人住民の方々においては、日本人の地域コミュニティとはかかわりの薄い方々も多いとおもいます。そこにおいて懸念される事の一つは、緊急性の高い情報の入手の術であるかと考えます。たとえば、南海トラフ地震の発生確率がどんどん高くなる今、より一層懸念されます。実際に、大阪北部地震を体験した区内在住の留学生たちが、居住地域内の避難所を把握しておらず、はじめて経験する地震にパニックになったとのお話しをお聴きしましたり、コロナ禍では、外国にルーツのある方にとって行政サービス利用のハードルが高いというお話しをお聴きしたりしました（東淀川区役所地域課さまより）。わたしたちは、こうした外国にルーツのある方の情報入手の術を研究調査の出発点としてする中で、外国にルーツのある方がもっともっと参加してもらえるような関係作り（異文化交流から多文化共創へ）が必須だと感じています。そこで、今回の報告では活動の拠点である大阪市東淀川区の外国人人口の増加傾向の特徴を把握したうえで、以下の活動を手掛かりとして、異文化交流、多文化共存、そして異文化共創への道筋を考えて示唆したいとおもいます。

2. 年間計画

- 2024年5月：箕面市立多文化交流センターインタビュー訪問
- 2024年6月：国際未来学院（東淀川区日本語学校）さまとの第1回異文化交流ミーティング
：安積濾紙株式会社（東淀川区企業）さま外国人労働者の方へのインタビュー訪問
- 2024年7月：国際未来学院（東淀川区日本語学校）さまとの第2回異文化交流ミーティング
- 2024年8月：かみしんプラザ（東淀川区）異文化交流サマーイベント開催
- 2024年12月：かみしんプラザ（東淀川区）異文化交流ウィンターイベント開催予定

3. 活動成果

- 第23回日本地域政策学会ポスターセッション発表（於：龍谷大学）
- 安積濾紙株式会社（東淀川区企業）さま、国際未来学院（東淀川区日本語学校）さまとのジョイント異文化交流サマーイベント開催
- 第38回自治体学会鹿児島大会ポスターセッション発表（於：日置市中央公民館）

4. 地域からの評価

地域からではありませんが、国際未来学院さまからは、「普段東淀川区で生活をしていても、地域の方と話したり、コミュニケーションをとることは留学生には簡単なことではありません。そんな学生たちにとって、今回のイベントは地域の方と交流できるいい機会となりました。」との評価をいただきました。

5. 参考 WEB サイト

- 異文化交流サマーイベント at かみしんプラザ - SF 国際 (kokusaimirai.com)
<https://kokusaimirai.com/%e6%9c%aa%e5%88%86%e9%a1%9e/%e7%95%b0%e6%96%87%e5%8c%96%e4%ba%a4%e6%b5%81%e3%82%b5%e3%83%9e%e3%83%bc%e3%82%a4%e3%83%99%e3%83%b3%e3%83%88-at-%e3%81%8b%e3%81%bf%e3%81%97%e3%82%93%e3%83%97%e3%83%a9%e3%82%b6/>
- 古賀敬作ゼミ「第23回日本地域政策学会全国研究京都大会」で発表 | 学部・大学院 | DAIKEI Topics | 大阪経済大学 (osaka-ue.ac.jp)
https://www.osaka-ue.ac.jp/topics/education/20240805_2442.html

6. 活動メンバー

経営学部 3年 梅本瑞希、岡田拓海、富岡浩多、中川直哉、大西愛望、池下文菜、大賀裕太、川上怜、伊藤航太郎、川田愛子、鈴木佑太朗、田中紀行、松田未来、山口蒼空、大谷拓登、市原すみれ、木村香羽、木村拓正、長浦暖、卯野雅

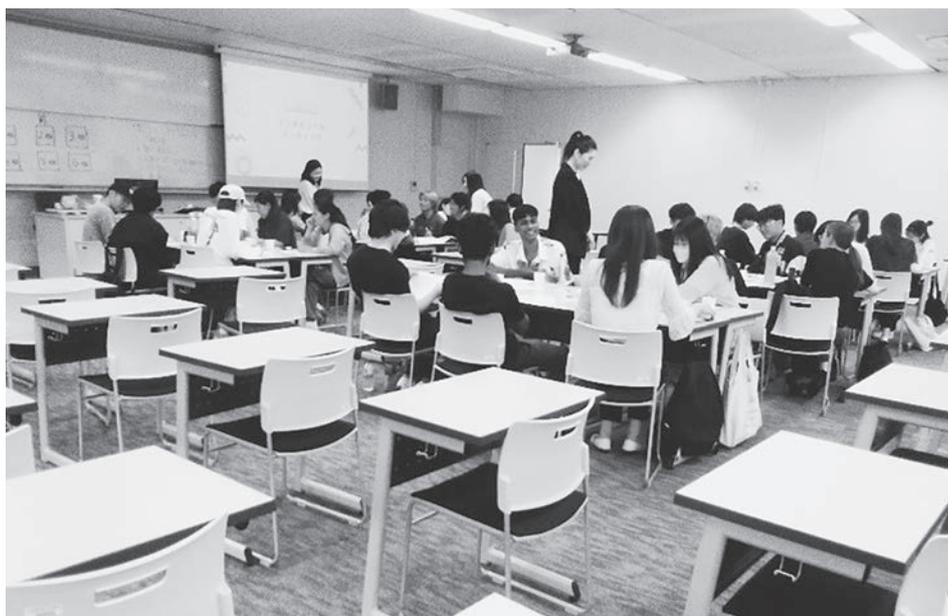
7. 担当教員

経営学部 教授 古賀敬作

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪経済大学	
所属先・職名	経営学部 教授	
氏 名	古賀敬作	
連絡先	電 話	06-6328-2431
	メー ル	k_koga@osaka-ue.ac.jp

9. 活動の様子



学生発表②

■大阪国際大学短期大学部 栄養学科 海老澤セミナー

活動テーマ	“食”をとおした地域とのつながり
活動場所	守口市、門真市
連携先	守口市、門真市、守口市立よつば小学校、守口市立大久保中学校、JA北河内女性会
活動主体	大阪国際大学短期大学部栄養学科 海老澤セミナー

1. 活動概要

大阪国際大学短期大学部栄養学科は食と栄養のスペシャリストである栄養士を養成する機関である。“食”をとおして様々な形で守口市、門真市を中心とした大学近隣地域で活動をおこなっている。中でも、海老澤セミナーでは、「キッチンサイエンス」を取り入れた科学実験を用いた食育と地域の特産物である門真れんこんのレシピ開発に学生が取り組んでいる。これまでに大学近隣の小学生を対象に食べ物や食品衛生に関する実験イベントを複数回実施している。また、門真れんこんについては、産学官連携のもと試作を重ね数種類のれんこん料理を開発して、その成果を2024年大阪で開催された第19回食育推進全国大会にて発表した。以上のように、大阪国際大学短期大学部栄養学科では“食”をとおした地域連携をおこなっている。

2. 年間計画

以下は2024年度の計画である。

- 4月～6月 食べ物を用いた子ども向け実験の調査、企画、予備実験など、門真れんこんレシピ開発に着手
- 7月 地域共催イベントでの実験の実施
- 7月以降 門真れんこんを用いたレシピの開発、食育イベントへの参加

3. 活動成果

〈食育に関する活動〉

- 大阪国際大学短期大学部栄養学科地域共催イベント（2022年度以降）
 - 2022年 「科学ハカセ～食べ物の不思議～」
 - 2023年 「ふしぎ?? 体験ラボ ～子ども博士になってくだものや野菜の秘密を知ろう～」
 - 2024年 「食べ物の不思議なワクワク実験」
- キッズキャンパス
 - 2023年8月 「夏を楽しもう！～冷えひえ冷却パックと紫外線チェックブレスレットを作ろう～」
 - 2020年1月 「味覚の一週間 -味覚の授業-」
- 門真市公民連携キャリア教育イベント「ミライのシゴト EXPO」
 - 2023年1月 「食品の安全についてのクイズと実験」

〈門真れんこんに関する活動〉

2023年10月 JA 北河内の門真中央支店（門真市）と庭窪支店（守口市）でのれんこん料理教室

2023年11月 門真市農業まつりに出展

2024年6月 第19回食育推進全国大会でブース出展

4. 地域からの評価

門真市役所 市民文化部 地域政策課

これまで栄養学科 海老澤セミナーでは、「門真れんこん」を使ったレシピを開発いただき、料理教室を開催されるなど、「食」への学びの場や地域交流の機会創出にご寄与いただきました。また、第19回食育推進全国大会では、門真市の特産品である「門真れんこん」や貴学と本市の住民との交流や連携実績について、全国にご紹介いただき、誠に感謝申し上げます。

守口市立よつば小学校 校長 横山 美香

「夏を楽しもう！～冷えひえ冷却パックと紫外線チェックプレスレットをつくろう～」では、実際に説明を受け、作成することで科学の1面に触れることができました。夏の自由研究のヒントにもなりました。地域共催イベントでは、学生さん方が体験型の食育イベントを企画してくださるため、小学生にわかりやすく、楽しく活動できます。どちらの企画も、年齢の近いお兄さん、お姉さんが優しく接してくれるので、親しみやすい活動です。

5. 参考 WEB サイト

栄養学科 海老澤セミナーが第19回食育推進全国大会でブース出展——地域連携による門真れんこんを通じた実践的な学びの発揮——

<https://www.oiu.ac.jp/oic/re-news/archives/2024/06/201259.html>

2023門真市農業まつりで栄養学科海老澤セミナーが出展

<https://www.oiu.ac.jp/oic/re-news/archives/2023/11/291135.html>

JA 北河内女性会×栄養学科海老澤セミナー ～学生メニュー開発による「れんこん料理教室」～

<https://www.oiu.ac.jp/oic/re-news/archives/2023/11/201000.html>

栄養学科×キッズキャンパス「夏を楽しもう！～冷えひえ冷却パックと紫外線チェックプレスレットを作ろう～」

<https://www.oiu.ac.jp/oic/re-news/archives/2023/08/251113.html>

6. 活動メンバー

大阪国際大学短期大学部栄養学科

海老澤セミナー 2年次生（有本帆花、桂木叶愛、徳田こころ 他）

7. 担当教員

大阪国際大学短期大学部 栄養学科 准教授 海老澤薫

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪国際大学短期大学部	
所属先・職名	栄養学科 准教授	
氏 名	海老澤薫	
連絡先	電 話	06-6902-0791
	メー ル	ebisawa@oiu.jp

9. 活動の様子



大阪国際大学短期大学部栄養学科
海老澤セミナー × 大阪府門真市



門真れんこんを知ろう！
～大阪府門真市で栽培されているれんこんについて～

門真れんこんを使った海老澤セミナーでの取り組み レシピ開発までのストーリー

海老澤セミナーでは、門真れんこんを使ったレシピ開発を行っています。
門真市を含む京阪沿線で唯一の栄養士を養成する教育機関として栄養士を目指す学生たちが地産地消を目的に、活用方法の新規開発に取り組んでいます。

①2023年度夏～秋 レシピの検討と試作



試作を重ねて以下の4品を
開発しました。

- ①れんこんパンケーキ
- ②れんこんコロッケ
- ③れんこんティラミス
- ④れんこんクレープ

②2023年10月 J A北河内にて料理教室を開催



2023年11月 第44回門真市農業まつりにて成果を発表



セミナー生の感想

- ・「考案したメニューを外部の方々に披露でき達成感を感じた」
- ・「"おいしい"と言っただき、やりがいを感じた」
- ・「作業の段取りの大切さを痛感した」
- ・「的確に指示を出すことの難しさを感じた」
- ・「栄養士として就職した際にこの経験をいかしたい
- ・「地域活性の一翼担うことができた」

学生にとって貴重な経験となり、「実践的な学び」となりました。

海老澤セミナーの
取り組みは、大学の
ホームページにも
掲載されていま
す。



大阪国際大学短期大学部栄養学科
海老澤セミナー × 大阪府門真市



大阪国際大学短期大学部
OSAKA INTERNATIONAL COLLEGE



門真市
Kadoma City



大阪国際大学短期大学部 栄養学科 地域共催イベントと守口市中学校給食レシピ開発

大阪国際大学短期大学部栄養学科では、これまでに近隣自治体と連携して様々な取り組みを実施してきました。

地域共催イベントと守口市中学校給食レシピ開発についてご紹介します。

地域共催イベント



栄養学科では2005年より大阪国際大学短期大学部栄養学科、守口市立大久保中学校、守口市立よつば小学校、大久保中学校校区学校支援地域本部の共催で地域共催イベントを開催しています。小学生を対象に食育イベント、料理教室を実施します。2年生の学生自らイベントの企画、運営を行います。食育に関する実践的な力を身につけます。※写真は2023年7月に実施したもの

守口市中学校給食レシピ開発プロジェクト



2月5日(月)～ジブリ飯～
ビーフシチュー/鮭のムニエル/
豆腐とツナのサラダ/オレンジゼリー



2月15日(木)～中華料理～
天津飯/海鮮炒め/中華サラダ/
きなこもち



2月6日(火)～肉料理～
甘辛ささみ揚げ/根菜サラダ/
ほうれん草のゆずポン酢和え/
ポトフ風カレースープ



2月16日(金)～魚料理～
鮭のクリームソースかけ/あまからカボチャ/
レンコンのペペロンソテー/
大地の恵みスープ

栄養学科では2017年より2年生が守口市教育委員会や給食業者(株式会社万福)とコラボレーションして中学校給食のレシピ開発に挑戦しています。中学生の嗜好だけでなく、安全においしく提供できるよう、試作を繰り返してレシピを完成させます。※写真は2024年2月に提供したもの

大阪国際大学短期大学部
所在地：大阪府守口市藤田町6-21-57
電話☎：06-6902-0791(代表)

大阪国際大学短期大学部
栄養学科についての詳しい紹介や入試については右のQRコードからアクセスしてください。



学生発表③

■大阪電気通信大学 工学部 北澤研究室

活動テーマ	香里三井団地ニコニコのデザインプロジェクト …学生と住人によるコミュニティ拠点整備…
活動場所	寝屋川市三井が丘
連携先	大阪府住宅供給公社、寝屋川市
活動主体	大阪電気通信大学 工学部 北澤研究室

1. 活動概要

寝屋川市の空き家の問題を調査することを始めた時期に、香里三井団地のニコイチのプロジェクトをきっかけに、空き家が目立ち始めた団地に関わる人たちを笑顔にしようと、ニコニコのデザインプロジェクトが始まった。

プロジェクトのキーワードを「温故知新」と設定し、1年目は「古きをたずね、団地を知る」ことで、建設から50年が経過した団地の魅力を知り継承する。2年目は「新しきを知り、団地で実践する」ことで、現代のライフスタイルに対応する住まいを創ることを目標としている。3年目は「知ったことを生かし、可能性を広げる」ことで、住民の方とともに団地の未来を具現化していくことを目標としている。知ることと実践すること、交流することのサイクルを繰り返すことで、時代に応じた取り組みを、住民目線に立って出来ることから始めようとしている。

次年度以降も公社と大学と市、そして補助事業主体である国交省とも連携しながら、オールドタウン化した街に対しての新しい再生スキームを確立していく。今後は大学内だけでなく地域の方と様々な分野へ体制を広げていき、団地のニーズに応えたいと考えている。

2. 年間計画

- 4月 メンバー募集開始
- 5月 集会所改修に向けたワークショップイベント開催、
イベント時のアンケート集計
デザイン案模型の制作、事後チラシの作成
- 6月 ワorkshopイベント結果を受け、
設計したデザイン案模型を集会所へ設置・より精度を上げるための住民さんによる投票
- 7月 夏イベントに向けた企画考案
イベント時のアンケート考案
デザイン案の整理及び、集会所改修案の完成
- 8月 夏イベント告知チラシ制作・配布、
夏イベント「三井の思い出竹縁日」開催
- 9月 事後チラシの制作・配布、アンケート集計
- 10月 夏イベントやアンケートを受け、活動まとめ、
冬イベント企画考案 団地全体のデザイン提案
- 11月 冬イベント開催
- 12月 成果まとめ

3. 活動成果

現在は、街の歴史や成立ちの研究と並行し、地域の価値を理解し、その特徴を尊重しながら未来を考えるうえで重要だと考える。アンケートやイベントを通して住民とのコミュニケーションを図ることは、住民さんの声を取り入れた計画を立てるための貴重な手段だ。特に今年度からは、住民の協力の不可欠な集会所改修を大幅に進めてきた。今まで興味を持ってもらえるよう企画したイベントも、改修に対するイベントが増えてきた。

青写真やマスタープランだけでなく、設計コンペなどで培った新鮮な学生提案は、様々な視点と創造力によって団地のアップデートやリノベーションがより多様かつ魅力的になるだろうと考える。次年度以降も、公社や大学、市、国交省などとの連携は本プロジェクトに欠かせないものであり、オールドタウンの再生スキームを確立するためには、専門的な知識やリソースを結集することが不可欠である。

こうした取り組みによって、歴史ある街が新たな息吹を得て、より魅力的で持続可能な場所として再生し、住民さんとともに確立していく。

4. 地域からの評価

最初は住人から知られていないプロジェクトで、イベントをしても自治会の役員の方のみの4人の参加者であった。しかし、チラシや広報活動・イベントを繰り返していくうちにプロジェクト自体が少しずつですが周知されてきたと感じる。前々回のイベントでは主に集会所の改善点を住民さんから直接聞き、「子供や若者が好むデザインってどんながある？」など一緒に改修案を考えていただいた。また前回のイベントでは集会場の提案を披露させて頂いた時は「楽しそう」「子供がよろこびそう」「使いやすくなりそう」などといった嬉しい声を直接いただいている。

これらから、住民たちにとっても地域交流の需要があることがわかり、私たち学生が住民同士の繋がりを築く役割を果たせる可能性があると感じた。

次のフェーズは「団地での実践」ということで、地域拠点や交流拠点のデザインを継続的に発展させていきたいと考えている。

5. 参考 WEB サイト

<https://nikoniko.danchi-renovation.com/>

6. 活動メンバー

工学部建築学科 学部4年 松下昇司
学部3年 藤枝和奏、川寄支聖、小川智咲、濱崎七海、片山鼓花

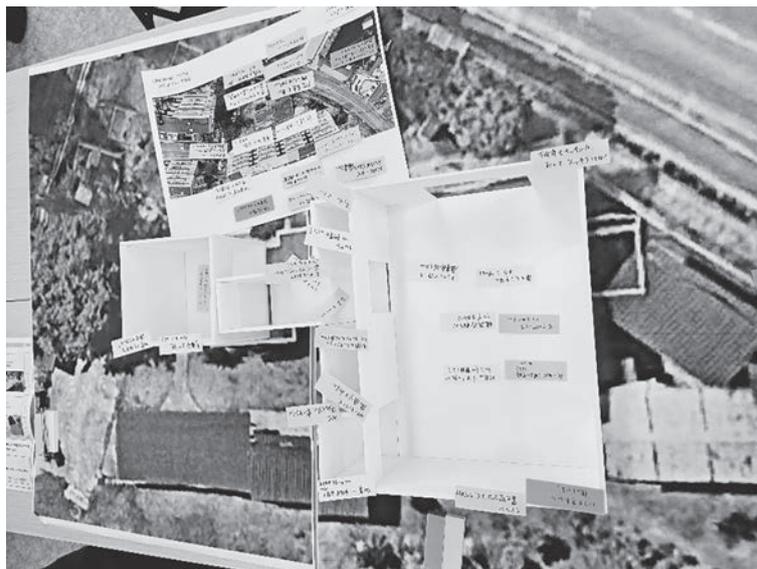
7. 担当教員

建築・デザイン学部 建築専攻 准教授 北澤誠男

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪電気通信大学	
所属先・職名	建築・デザイン学部 建築専攻 准教授	
氏 名	北澤誠男	
連絡先	電 話	072-824-1131
	メー ル	kitazawa@osakac.ac.jp

9. 活動の様子



学生発表④

■ 関西大学 児童文化実践サークル「うぶ」

活動テーマ	子どもと関わるボランティア
活動場所	大阪府吹田市
連携先	吹田市内の学童保育、児童館など
活動主体	関西大学児童文化実践サークル「うぶ」

1. 活動概要

私たちは、吹田市内にある学童保育や児童館を訪問し、子どもたちと関わるボランティアをしています。内容としては、ペープサートという人形劇や、紙芝居、ゲームを用意し、子どもたちに楽しんでもらえるようなプログラムを提供しています。活動場所や対象年齢、人数に応じてプログラムを練って、多くの子どもたちに楽しんでもらえることを目指しています。

学童保育には、学校がある期間の毎週水曜午後に訪問しています。一回の訪問につき5～10人ほどが参加します。アポイントメントを取るところから自分たちで計画し、訪問毎に計画書を作成、役割分担をして担当を割り振り、練習に移ります。本番を想定したりハルサルを実施し、反省を踏まえ、本番へ臨みます。本番は、子どもたちのリアクションも参考にしながら、導入、プログラム、まとめの流れで進行します。本番の前後には学童保育指導員の方と打ち合わせ、振り返りを行い、より良いプログラムの提供に努めています。

2. 年間計画

4月 新入生歓迎オリエンテーション、顔合わせ等
5月 ～7月 学童保育訪問（春学期）
9月 ゆいびあ夏祭り 参加
10月 ～12月 学童保育訪問（秋学期）
11月 学園祭 出店
2月 学童保育訪問（2回目）
3月 新入生歓迎準備
※不定期で児童館などからの依頼

3. 活動成果

活動の一環で、公民館からの依頼を受けたこともあります。「SDGsプロジェクト」という、廃材を使用して、施設の一角に子どもたちの憩いの場を作るという企画を行いました。3日間という短い期間で、限りある廃材の中でどのように進めていくか試行錯誤しました。子どもたちに楽しんでもらえるように、テーマを海の秘密基地にして取り組みました。ペットボトルキャップでボールプールを作ったり、段ボールを用いてトンネルを作ったりしていきました。小学生を対象に作っていましたが、未就学児もたくさん来るということから、低い位置からでもボールを転がして遊べる仕組みを取り入れました。完成してから一度訪れてみると、乳児と母親で遊んでいたりと、高校生が興味を持ってくれたりと、幅広い方に楽しく遊んでもらえることができました。SDGsプロジェクトを達成することで、子どもたちの笑顔を作ることができたと考えています。施設の方からも好評で、それ以降、イベントに呼んでいただけるようになりました。

4. 地域からの評価

訪問先の学童保育では、指導員の方から「子どもたちがうぶさんが来るのを楽しみにしていた」というお話をよくしていただきます。実際、子どもたちは半年前に訪問したのに我々の名前を覚えており、訪問する度に子どもたちの印象に残っていることが伺えます。私たちのペープサートを真似して、子どもたちが作ったというお声もありました。子どもたちにとっての、楽しい機会づくりに貢献できているのではないかと考えます。

5. 参考 WEB サイト

- うぶ公式 Instagram :
https://www.instagram.com/upu_pan_pangu?igsh=anFjaXA2MDBvc3No&utm_source=qr
- うぶ公式 X : https://x.com/ku_upu?s=21&t=ncjKOYZCQgX-JNtAyNI03Q

6. 活動メンバー

関西大学児童文化実践サークル「うぶ」サークル員
秋本花栄、西澤初殊、林功一郎

7. 担当教員

文学部 教授 菅村玄二

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	関西大学	
所属先・職名	文学部 総合人文学科 3年	
氏 名	秋本花栄	
連絡先	電 話	070-2295-3515
	メー ル	Shimarisu923@gmail.com

9. 活動の様子



学生発表⑤

■ 摂南大学 農学部 すももサイダープロジェクト

活動テーマ	地域振興・農業振興への貢献につながる6次産業化の取り組み
活動場所	枚方市
連携先	枚方市役所 農業振興課、山口農園
活動主体	摂南大学農学部すももサイダープロジェクト

1. 活動概要

本活動は2021年度より行なっている。

枚方市杉北町には古くから「すもも団地」と呼ばれる地域があり、約80aのなだらかな丘陵地に約100本のスモモの木が植えられている。しかし、現在は栽培農家が減り続けている。

2020年4月に開設した農学部は、枚方市との連携協定に基づいて、市の特産品「すもも」の知名度を高めるために加工飲料の開発プロジェクトを立ち上げた。2021年11月には「すももちゃんサイダー」を開発した。甘味や酸味を調整し、香料や着色料を使用せず、スモモ本来の味を味わうことができる。

枚方市の地域・農業振興に関わる活動を行っていく。

2. 年間計画

- 1) 山口農園でのすもも収穫作業（6月下旬～7月中旬）
 - ① 山口農園で栽培されているスモモを収穫した。
 - ② 収穫したスモモの種取りを行った。
- 2) 山口農園スモモの木の剪定作業の補助（1月～2月）
- 3) 「すももちゃんサイダー」販売（通年）
 - ① 枚方市で開催される農業イベントにて販売を行った。
 - ② 地域イベントにて販売を行った。

3. 活動成果

- 1) 枚方市のふるさと納税返礼品に採択された。
- 2) 大阪産（もん）に登録された。
- 3) 枚方市立山田中学校総合的学習の時間で中学生5名から取材を受けた。
- 4) 「すももちゃんサイダー」は、発売から3年で販売本数が2万5千本を超えた。
- 5) 各種イベントでの販売を行った。

4. 地域からの評価

摂南大学と枚方市は、令和3年3月、健康・医療、農業振興及び食等の多様な分野での連携、地域の発展を目的とした包括連携協定を締結しました。この協定に基づき、かつて「すもも団地」と呼ばれ、現在も生産量府内一を誇る杉北地区のすももに着目し、学生主体の取り組みとして「すももサイダープロジェクト」が立ち上げられ、市と共同ですももちゃんサイダーの商品化が実現しました。すももは「足が早い」とされ、長期間の保存に適していない他、色つや等の見映えにより一般では販売されないすももも存在します。こうしたすももなどから果汁を搾取し、6次産業化につなげることは、農業者にとっても大変有益な取り組みになりました。

爽やかな甘みのあるすももサイダーは、現在、市のふるさと納税の返礼品にも採用され、市のPRにも貢献しています。プロジェクトに参画された学生の皆さんが、今回の経験を活かし、今後も積極的にチャレンジされることを期待しています。

5. 参考WEBサイト

摂南大学プレスリリース <https://www.setsunan.ac.jp/files/no2115.pdf>
すももちゃんサイダー（ひらいろ） <https://hirairo.com/shop/detail-27311>
大阪産（もん） <https://osaka-mon.org/commodity/1070>

6. 活動メンバー

園芸倶楽部 ‘植食’ 準備会
(代表：農学部農業生産学科3年吉本悟志、矢倉咲、農学研究科1年井上涼平)
農学部応用生物科学科 学生有志
農学部食品栄養科 学生有志
農学部食農ビジネス学科 学生有志 計40名

7. 担当教員

農業生産学科 講師 北村祐人
応用生物科学科 助教 沼本 穂
食品栄養学科 教授 山田徳広
食農ビジネス学科 准教授 中塚華奈

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	摂南大学
所属先・職名	農学部事務室・室長
氏 名	国分房之輔
連絡先	電 話 072-896-6000
	メー ル KOKUBU.Fusanosuke@josho.ac.jp

9. 活動の様子



すもも収穫・種取り作業



すももちゃんサイダー販売

学生発表⑥

■桃山学院大学 社会学部 ソーシャルデザイン学科

活動テーマ	コミュニティの輪の創出
活動場所	大阪府大阪市住吉区菟田4丁目3-9
連携先	社会福祉法人 四恩学園
活動主体	桃山学院大学 社会学部 ソーシャルデザイン学科

1. 活動概要

活動を始めたきっかけは地域との共生を目指したい四恩学園と、当時のコロナ禍において求められた学生にとっての実践の場の創出を目指し、2022年に活動を開始した。

主な活動内容としては地域のコミュニティカフェとSHARE TABIを行なっている。

コミュニティカフェは月に一度開催し、計画から運営まで全て学生主体で取り組んでいる。また、季節に合わせたイベントを行い、7月には夏祭りを開催し、普段のカフェにプラスして屋台を開き、子供達の遊びの場を増やした。

また、SHARE TABIとはコロナ禍で外出制限がされていた高齢者に思い出の地を伺い、代わりに学生が撮影しに行き、動画を編集し、実際にその場に行ったような感覚を味わってもらう活動である。また、その動画をよりリアルに感じていただくためにVRを使い、高齢者と学生の思い出をシェアする活動である。

2. 年間計画

実施予定月

1月～6月 コミュニティカフェの運営

7月 夏祭りイベント

8月～9月 コミュニティカフェの運営

10月 ハロウィンイベント

11月 コミュニティカフェの運営

12月 餅つきイベント

(年に2回、高齢者の模擬外出 [SHARE TABI] の運営)

3. 活動成果

2022年 日本経済新聞掲載

2023年 愛媛新聞掲載

2023年 NHK 高知 News Web テレビ放送

2023年 NHK 総合ほっと関西放送

2023年 産経新聞掲載

2024年 第一回社会福祉学生ヒーローズ賞受賞：社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会主催

2022年度、2023年度 大学表彰

4. 地域からの評価

活動内で行ったアンケートの回答から抜粋

- ボランティアの学生さんの対応のよさに感心しています。(女性 70代～)
- アットホームな雰囲気です。居心地もよく、子供と利用しても安心して利用できるのでも嬉し
いです。(女性 30代)
- 母(94歳)が以前より伺っていますが、こんなに賑やかだとは知りませんでした。若い方々がス
タッフで優しい声掛けをしていただき、ほんとにありがたく思います。介護認定を受けデイサー
ビスに参加させていただきたいと思いました。(女性 60歳以上)
- 若い方々がやさしく接していただき高齢の者には話もしてもらったり、楽しい時間を過ごしてい
ます。なつかしい人に出会ったり月一回ですが待ち遠しいです。(女性 70代～)

5. 参考WEBサイト

Instagram

FIGOREI【コミュニティ創出】 (@fiorei_2022) ・Instagram 写真と動画

https://www.instagram.com/fiorei_2022/

社会福祉 HERO's、社会福祉学生ヒーローズ賞

<http://www.shafuku-heros.com/news/gakuseiheros-2023/>

NHK 高知 NEWS WEB

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kochi/20231203/8010019320.html>

6. 活動メンバー

社会学部ソーシャルデザイン学科 3年

下西萌衣・西菜沙・堀田愛唯・丸山日生・岩木陽和・金崎りん・田村優・濱田雅人・金谷灯里・
西野颯汰・寺田彩人・米田卯麗

その他49名(ソーシャルデザイン学科1～4年)

7. 担当教員

社会学部 准教授 南友二郎

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	桃山学院大学	
所属先・職名	社会学部 ソーシャルデザイン学科 3年	
氏 名	寺田彩人	
連絡先	電 話	070-2312-6459
	メー ル	22s2088@andrew.ac.jp

9. 活動の様子

<p>7月のコミュニティ カフェの様子</p>	
<p>SHARE TABI (模擬外出) の上映会</p>	
<div data-bbox="204 1198 416 1489">  </div> <p>SHARE TABI</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の模擬外出 <small>コロナ禍で外出不可能な高齢者に代わり、学生が高齢者の思い出の地に赴き、要望に沿った映像を撮影・編集し、お届けするといった企画です。</small> ・ 思い出をSHAREする <small>若者を中心に、様々なモノをSHAREする時代ですが、高齢者の皆様とも何かをSHAREする取り組みが必要と考えました。</small> <p style="text-align: right;">6</p>	<div data-bbox="821 1198 1034 1489">  </div> <p>コミュニティカフェ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 居場所の創出 <small>赤ちゃんから高齢者まで、地域にお住まいのすべての方の居場所、多世代交流の場としての機能を果たす。</small> ・ 新しい楽しみに触れる <small>学生ならではの視点で、スイーツを販売。高齢者も新しい食との出会いを楽しんでおられるようです。</small> <p style="text-align: right;">5</p>

フォーラム当日の様子



須原部会長 開会挨拶



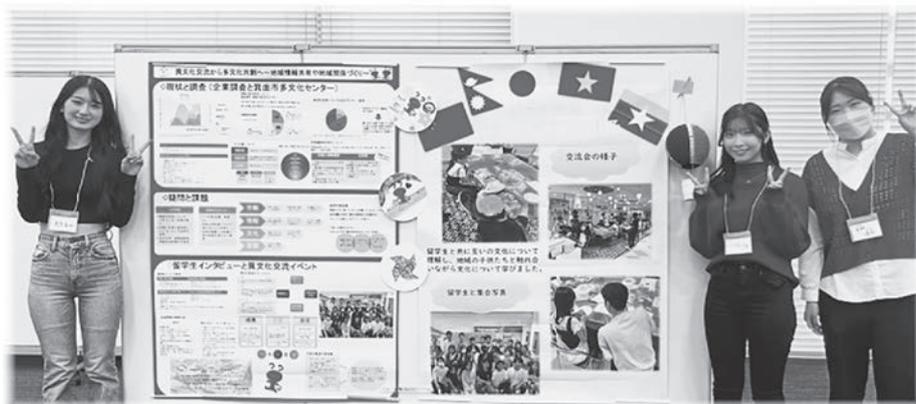
アイスブレイク



大阪国際大学短期大学部 栄養学科
海老澤セミナー



関西大学 児童文化実践サークル
「うぶ」



大阪経済大学 経営学部
古賀敬作ゼミ

学生発表（前半）



大阪電気通信大学 工学部
北澤研究室



桃山学院大学 社会学部
ソーシャルデザイン学科



摂南大学 農学部
すももサイダープロジェクト

学生発表（後半）



久推進委員長



尾山副推進委員長



伊藤委員

委員からの講評



万博協会による情報提供



グループワーク



全体発表



グループワーク



集合写真

参加者アンケート集計結果

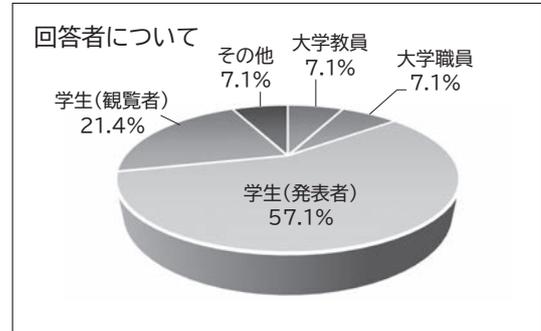
回答者数 14名／参加者数 51名* (回答率：27.5%)

*大学コンソーシアム大阪関係者及び万博協会関係者、学生運営メンバー計16名は除く

1. 回答者について

大学教員	1
大学職員	1
学生（発表者）	8
学生（観覧者）	3
自治体関係者	0
産業界（企業等）関係者	0
その他	1

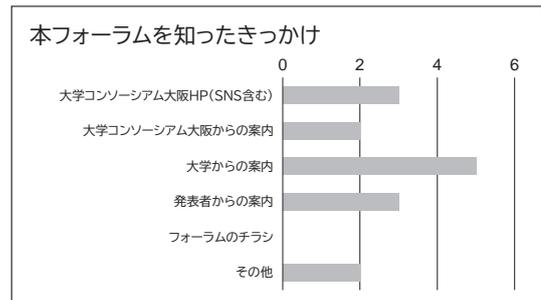
【その他】 公務員（中学校）



2. 本フォーラムを知ったきっかけ（複数回答あり）

大学コンソーシアム大阪 HP (SNS 含む)	3
大学コンソーシアム大阪からの案内	2
大学からの案内	5
発表者からの案内	3
フォーラムのチラシ	0
その他	2

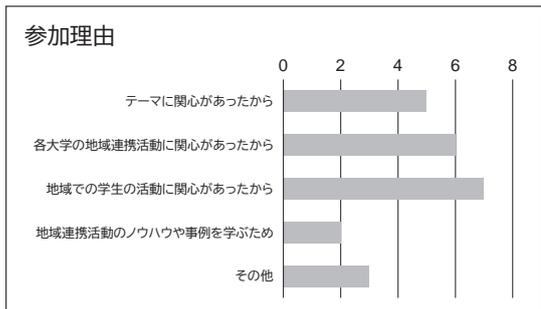
【その他】 ゼミの先生からの案内、サークル仲間から



3. 本フォーラムへの参加理由（複数回答あり）

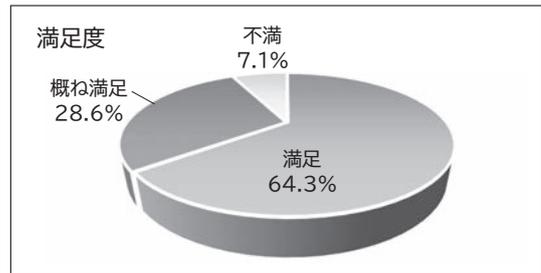
テーマに関心があったから	5
各大学の地域連携活動に関心があったから	6
地域での学生の活動に関心があったから	7
地域連携活動のノウハウや事例を学ぶため	2
その他	3

【その他】 卒業生が発表するから、ゼミの授業内容、なんとなく



4. 本フォーラムの満足度について

満足	9
概ね満足	4
満足できない点があった	0
不満	1



4-2. 上記と回答した理由

満足と回答

楽しく発表を聞くことが出来る環境が整っていたため。
さまざまな学生の地域連携活動について知れた。万博を意識したワークショップでは他大学の学生同士で意見を出して交流する貴重な経験ができた。
多くの事例を知ることができた。
大学生の研究活動内容を中心に発表したの、各大学の研究成果による交流ができると思います。
他大学の活動を知るきっかけになったため。
関わることの無い他大学の人達と交流でき、良い経験になったから。(他1件)

概ね満足と回答

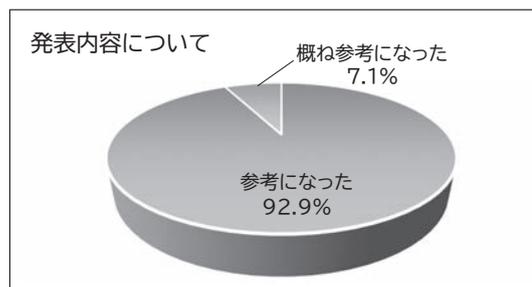
グループワークは各大学の学生と一緒に議論して良い取り組みかとおもいました。ポスターセッションについては、「緊張感」の点から従前のプレゼン形式がよいかと思いました。
昨年度の登壇発表形式もよかったです。

不満と回答

地域で活躍する学生の活動よりも、万博のグループワークがメインだと感じたため。
--

5. 発表内容について

参考になった	13
概ね参考になった	1
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0



5-2. 各発表についての感想や意見

皆さんの取り組みや頑張り、工夫等が感じられて、同世代として大学生の勢いや頑張りを強く感じる事が出来て良かったです。
各大学に所属する学生の、さまざまな面白い取り組みについて知ることができてよかった。学生の力ってこんなにすごいものなんだと実感した。どれも社会貢献度の高い取り組みばかりで、学生と地域のつながりに改めて感銘を受け、自分たちも頑張ろうという意識が芽生えた。
予想以上に各大学が地域との関わりがあることを感じた。
それぞれの大学が地域連携という共通のテーマで集まり共有できて、分野は違えど学ぶことがとても多く、楽しかったです。
どの発表もよくできており、地域連携をテーマに企業、公機関との連携の様子を知れた。
それぞれ学科の特性を活かしているような活動が行われていて、良い学びになった。
各大学において実践的な取り組みが見られ感銘いたしました。
様々な活動を知れてよかった。
各発表とも、とても参考になりました。
一番印象深いのは摂南大学のすももちゃんサイダーです。大学と地域の連携で商品化したことが素晴らしいと思います。
ジャンルが様々で新鮮であった。
地域で活躍する学生の発表を聞いて自分たちの活動に活かせるような部分があった。
どの発表も本格的で驚いた。
ポスターの形式(A0印刷や最小フォントの設定など)を合わせて表彰などがあると良いように感じた。

6. フォーラム全体について意見、感想等

良い経験になった。
1回目の時の様子からなのかどうかは分かりませんが、2回目の発表の時に配置を変えていたことが印象的でした。
確かに、1回目の時は他の発表等で聞き取りにくいところがあったのは確かだったので、音が通りやすい工夫をすぐに実行されていたのがすごい！！と思いました。
発表の後の講評は、これからの活動に向けて良いアドバイスだと思います。
万博に関する情報が得られて、満足しています。
口頭発表の方が全ての発表を聞くことができたのではないかと感じた。
認知度が低すぎる。もっと多くの学生団体や教員にこの組織やフォーラムの存在を呼び掛けてほしい。オーディエンスが多いと発表にもより価値が生まれると思う。このフォーラム自体が広まればいいと思う。

7. 本フォーラムの企画・運営を行った学生運営メンバーへのメッセージ

<p>とてもスムーズな運営で楽しく参加させて頂きました。かなり準備を丁寧に行われていたことが伝わり、素晴らしいフォーラムだったと思います。</p>
<p>アイスブレイクから楽しく参加できた。学生らしく楽しい進行であった。2回目の発表の際に発表の配置が変更されていて、各ブースの音が聞き取りやすくなったように思う。このフォーラムを通して貴重な経験ができた。ありがとうございました。</p>
<p>学生メンバーのみなさまのおかげでとても良い発表ができました。私は2年前に学生フォーラムの運営メンバーで今年は発表でしたが、フォーラムに向けてのみなさまの努力が今後の活動に大いに役に立つと思います。これからも頑張ってください。そして、思い立ったが吉日。これからさまざまな活動を行い、また地域連携学生フォーラムの舞台にぜひ帰ってきてください。</p>
<p>学生運営メンバー全員に感謝しています。来場者の不安や悩みにすぐに対応して、解決されていました。</p>
<p>成長した姿が見れてよかったです。これからも頑張ってください。</p>
<p>万博のグループ活動でとても手助けしてもらいました。ありがとうございました。</p>
<p>テキパキと動いておられ、各ポスターセッションのコーナーで質問等のサポートいただき、お礼申し上げます。</p>
<p>とても素晴らしかったです。</p>
<p>お疲れ様でした。(他1件)</p>

学生運営メンバー 活動実績

1. 活動スケジュール

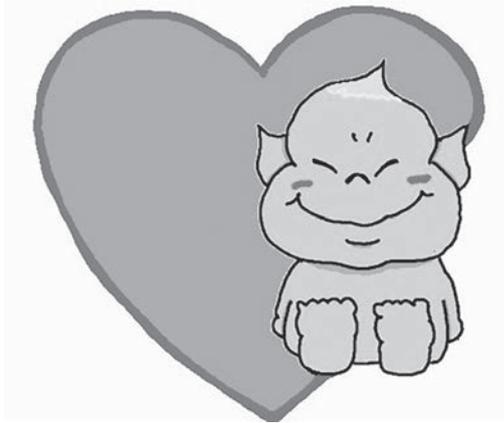
回	活動日	検討内容等
第1回	5月24日	キックオフミーティング (自己紹介、役割分担、テーマ・企画のブレインストーミング)
第2回	5月29日	ミーティング (テーマの決定、大まかなフォーラムの方向性の検討)
第3回	6月6日	ミーティング (チラシデザインの検討)
第4回	6月10日	ミーティング (フォーラム内容の具体化、学生交流企画の検討)
第5回	6月12日	ミーティング (フォーラムの広報方針の検討)
第6回	6月20日	ミーティング (フォーラムの広報方針の検討)
第7回	7月1日	ミーティング (学生交流企画の具体化)
第8回	7月10日	ミーティング (Tシャツデザインの検討、観覧者募集に関する広報方針の検討)
第9回	7月17日	ミーティング (観覧者募集に関する広報方針の検討)
第10回	8月29日	ミーティング (観覧者募集チラシの作成)
第11回	9月9日	会場下見、ミーティング (当日プログラムの具体化)
第12回	9月20日	ミーティング (当日プログラムの具体化)
第13回	9月30日	ミーティング (当日の役割分担の検討)
第14回	10月9日	ミーティング (当日プログラム確定、準備物の確認)
第15回	10月16日	ミーティング (学生交流企画の最終調整)

※ 7月下旬～8月下旬は夏季休暇期間。

2. 学生運営メンバー (6大学9名) ※大学名五十音順

NO.	氏名	大学名	学部・学域	学科・学類	学年
1	小原 賢慎	大阪大学	工学部	応用理工学科	3年生
2	酒井 言羽	大阪公立大学	現代システム科学域	教育福祉学類	3年生
3	周 一君	大阪公立大学	文学部	哲学歴史学科	3年生
4	城谷 華	大阪公立大学	現代システム科学域	環境社会システム学類	3年生
5	光本 賀寿馬	追手門学院大学	経営学部	経営学科	4年生
6	志鶴 文美	関西大学	法学部	法学政治学科	2年生
7	T・R	近畿大学	国際学部	国際学科	3年生
8	寅本 心華	桃山学院大学	社会学部	社会学科	2年生
9	藤井 海舟	桃山学院大学	経営学部	経営学科	2年生

3. 活動の様子

<p>フォーラムオリジナルロゴ</p> 	<p>テーマの検討にあたり、メンバーの意見として、地域愛や育み、繋がりを深めるなどのキーワードが挙げられ、今回は「集え!!大阪 Lover～出会い、地域で支え合い～」に決定しました。</p> <p>このテーマに基づいて、大阪では非常に馴染みのあるビリケンさんをオマージュし、オリジナルロゴを作成しました。</p>
<p>ミーティング</p> 	<p>5月下旬のキックオフミーティングを皮切りに、フォーラムの開催に向けて、広報やプログラム内容等について検討を重ねました。</p> <p>参加者間のより密な交流機会を目指し、発表をポスター発表形式に、また、翌年に開催される大阪・関西万博に若者が積極的に参加するアイデアを考えるワークショップの設定など、実りあるフォーラムの開催に向けて、様々な工夫を検討しました。</p>
<p>フォーラム当日（10月20日）</p> 	<p>いよいよ学生フォーラムの本番を迎えました。</p> <p>よい緊張感の中で、それぞれの役割を再確認しながら、臨機応変に、また互いにフォローし合いながら対応し、滞りなくフォーラムが進行しました。</p> <p>また、交流企画では、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会の方をお迎えし、万博の開催概要などを共有いただきながら、同じ世代の若者が万博に積極的に参加する方策をグループで話し合い、一枚の模造紙に描きました。</p>

学生運営メンバーの活躍



受付



前打ち合わせの様子



司会



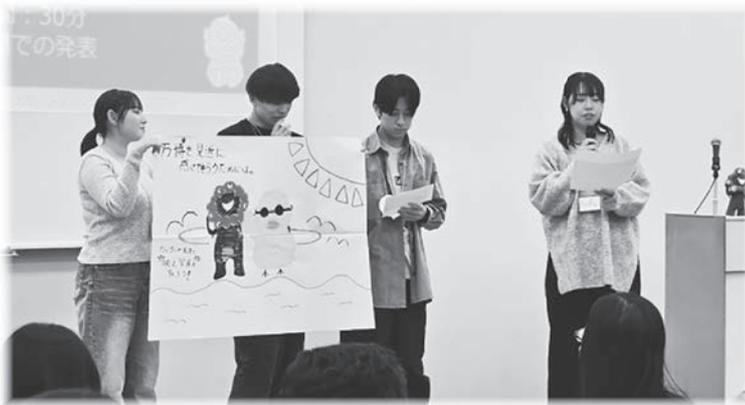
ポスター発表の様子



司会



グループワーク



全体発表



メンバーからの挨拶



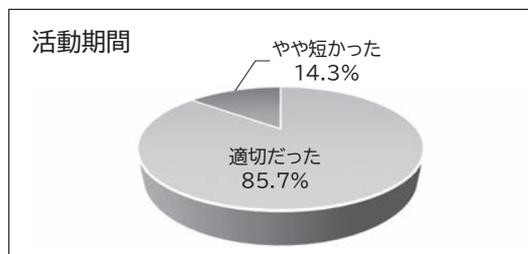
メンバー集合写真

学生運営メンバー 事後アンケート集計結果

回答者数 7名 / 参加学生数 9名 (回答率: 77.8%)

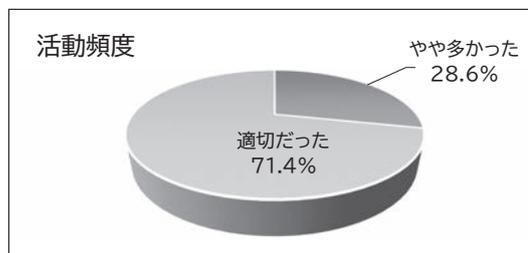
1. 活動期間について

長かった	0
やや長かった	0
適切だった	6
やや短かった	1
短かった	0



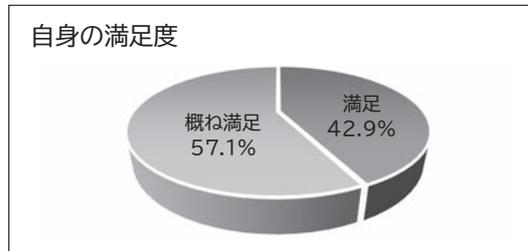
2. 活動頻度について

多かった	0
やや多かった	2
適切だった	5
やや少なかった	0
少なかった	0



3. 今回の活動を通じた自身の満足度について

満足	3
概ね満足	4
満足できない点があった	0
不満	0



3-2. 上記と回答した理由

満足と回答

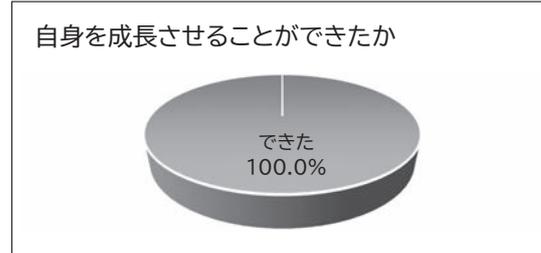
参加者もすごく楽しんでくれていたし、自分自身もすごく楽しめたから。
概ね全ての活動に参加することができ、イベント終了後の達成感も大きかった。
このようなイベントの運営に携わったのは初めてだったので不安な気持ちもあったが、準備の段階でメンバーとしっかり協同して活動できたため。

概ね満足と回答

自分もチームの方も一緒に主体的に動くことが出来たから。
学生自身が主体となってイベント作りに取り組めたため。
準備の予定が合う日が少なかったが、当日協力して臨機応変な行動ができたため。
もう少し活動に積極的な姿勢で取り組めば、更に良いものにできたのではないかと思います。

4. 今回の活動を通じて、自身を成長させることができたか

できた	7
できなかった	0
どちらともいえない	0

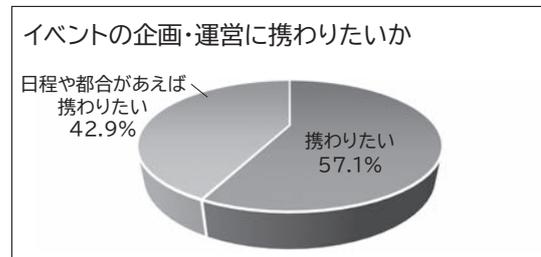


4-2. 上記と回答した理由

大人数の前でアイスブレイクのファシリテーターをしたのは初めてだったので、新しい経験ができたから。
自分で考えて動く力がついたと思うから。司会をしながら参加者の方に話を振ってみたりとアドリブができたから。
自身が苦手とした主体性を育むことが出来たと感じたため。
対応力という観点において。
様々な経験をしているメンバーに囲まれて、刺激を受けながら活動出来た。自分では思いつかないようなアイデアや考え方が多く、自分も学びながら活動出来た。
他大学の学生と協力するという活動が普段中々ないため、貴重な機会です自らを成長することができたと考える。
今まで取り組んだことがない、イベントの運営に携わることによって学ぶことが多かった。

5. 今後もこのようなイベントの企画・運営に携わりたいか

携わりたい	4
日程や都合があれば携わりたい	3
携わりたくない	0



6. この活動に参加した感想や、上記で回答した以外の意見等

なかなか人数がそろわず、連絡も取れないメンバーもいる中で、事務局のおかげで最後まで走りきることができました。
本当にありがとうございました。
初めての挑戦で不安なことも多かったのですが、運営さんのサポートやメンバーのおかげでたのしく過ごすことができました。その中でも楽しいことと真面目にしないといけないことの切り替えが上手くできていたので、特に困ることなく本番を迎えることができました。また機会があればぜひ参加したいと思います。ありがとうございました。
5ヶ月間とても楽しかったです。メンバーは皆良い人達で、最初こそ色々な活動をしているメンバーに気後れした部分もありましたが、イベント後には打ち上げをした後、プリクラまで撮るような関係になれました（また今度遊びに行く予定です。笑）。
事務局を含め、多くの大人の人に関わって頂き、最高の思い出を作ることが出来ました！ありがとうございました！
事務局職員の方々のサポートにより、学生だけではできないような素晴らしいイベントにすることが出来ました。ありがとうございました。

発表学生募集チラシ



～出会い、地域で支え合い～

地域連携 学生フォーラム in Osaka 2024

発表学生 大募集!

日時 2024(令和6)年10月20日(日)
10:00～17:00(予定)

会場 グランフロント大阪 北館タワーC 8階
ナレッジキャピタル カンファレンスルーム タワーC Room C01+02

対象 大学コンソーシアム大阪の会員大学に在籍する学生
※複数大学の学生によるグループも可(主たるメンバーが会員大学の学生であること)

募集締切

8月23日(金)



発表



交流



地域

発表対象

- 学生が地域と連携して取り組んでいる研究活動、事業、フィールドワーク等
- 学生が主体となって地域と連携して取り組む活動

発表にあたって

- 活動のテーマやエリア、進捗は問いません。
- 発表数が予定を大幅に超える場合や発表内容が開催趣旨から逸脱している場合は調整を行うことがあります。

エントリーの詳細は
下記のURLか右のQRコードから
アクセスしてください。

[https://www.consortium-osaka.gr.jp/
student/gakusei_forum](https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/gakusei_forum)

エントリー締切：8月23日(金)
17:00まで



問い合わせ先

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪 事務局(地域連携担当)
TEL: 06-6344-9560
MAIL: chiiki-renkei★conso-osaka.jp ※★を@に変えてください

運営学生メンバー
Instagram



主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

観覧者募集チラシ



集え！大阪lover
出会い、地域で支え合い

地域連携学生フォーラム

観覧者募集

IN OSAKA 2024

日時・場所

10/20日 10:00～16:30
グランフロント大阪 北館タワーC 8階
ナレッジキャピタル カンファレンスルーム
タワーC Room C01+02

地域連携学生フォーラムとは

大学コンソーシアム大阪の会員大学（42大学）に在籍している学生が、地域で取り組んでいる研究やゼミなどの活動について発表し交流する、学生主体のフォーラムです。



\POINT 1/

交流ができる！

発表終了後に、参加者同士の交流会があります！気になった話などを深掘りするチャンス！



\POINT 2/

ポスター発表！

1グループの発表内容について詳しく聞くことができます！



\POINT 3/

●●●●●●に会える!?

来年開催の“あの博覧会”について貴重なお話が聞けるかも？

発表者所属大学

大阪経済大学、大阪国際大学短期大学部、
大阪電気通信大学、関西大学、
摂南大学、桃山学院大学 ※大学名五十音順に記載



お問い合わせ先

特定非営利活動法人
大学コンソーシアム大阪事務局（地域連携担当）
☎ 06-6344-9560 ✉ chiiki-renkei@conso-osaka.jp

観覧のお申込みはこちら！



※*を@に代えてください！

おおまかな当日のスケジュール

- 10:00～ 大会挨拶
- 10:30～ 全体発表
- 10:50～ ポスター発表（前半）
- 11:30～ お昼休憩
- 13:00～ ポスター発表（後半）



発表大学 情報まとめ

1. **大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ**
異文化交流から他文化共創へ～地域情報共有や地域関係づくり～
2. **大阪国際大学短期大学部 栄養学科 海老澤セミナー**
食を通じた地域との繋がり
3. **大阪電気通信大学 工学部 北澤研究室**
香里三井団地ニコニコのデザインプロジェクト
～学生と住人によるコミュニティ拠点準備～
4. **関西大学 児童文化実践サークル「うぷ」**
子どもと関わるボランティア
5. **摂南大学 農学部 すももサイダープロジェクト**
地域振興・農業振興への貢献につながる6次産業化の取り組み
6. **桃山学院大学 社会学部 ソーシャルデザイン学科**
コミュニティの輪の創出

※大学名五十音順に記載

お問い合わせ先

特定非営利活動法人
大学コンソーシアム大阪事務局（地域連携担当）
☎ 06-6344-9560 ✉ chiiki-renkei@conso-osaka.jp

※*を@にかえてください！

観覧のお申込みは
こちら！↓





特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田 1-2-2-400

大阪駅前 第2ビル4階 キャンパスポート大阪

TEL:06-6344-9560

MAIL:chiiki-renkei★conso-osaka.jp(事務局 地域連携担当)

★を@に変えてください。

URL:<https://www.consortium-osaka.gr.jp/>